Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

Association of morning fasting blood glucose variability with insulin antibodies and clinical factors in type 1 diabetes

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-04-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 米田, 千裕 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032148

主論文の要旨

Association of morning fasting blood glucose variability with insulin antibodies and clinical factors in type 1 diabetes（１型糖尿病患者における早朝空腹時血糖変動とインスリン抗体および臨床的因子の関連）

東京女子医科大学八千代医療センター糖尿病・内分泌代謝内科
（指導；橋本尚武教授）　　米田千裕

Endocrine Journal に掲載(2016)63:603-609

【要旨】１型糖尿病患者の早朝空腹時血糖値は食事や日中の活動量の影響が少ないものの血糖変動がみられることが多く、低血糖の存在は心血管イベントの誘発や認知症などの発症増加につながるという報告も多い。夜間低血糖は以前睡眠時死亡（dead-in bed）として報告されていたが、この死亡の原因は低血糖によって誘発された致死的な不整脈による可能性が高いと推測されている。今回我々は、インスリン頻回注射または持続皮下インスリン注入療法をしているが血糖値の変動が大きい患者に対してインスリン抗体を測定し、その他の臨床的因子を含めて血糖変動との関連性について検討した。患者数は 54 名、HbA1c は 8.36±1.40%、自己血糖測定における早朝空腹時血糖値 30 日分を抽出するとその標準偏差は 47.5±22.0mg/dL であり抗体濃度とは有意な相関が認められた。また内因性インスリン分泌能とは有意な負の相関が認められ、罹病期間、ベースインスリン量、ボーラスインスリン量とは有意な正の相関が認められた。多変量解析では内因性インスリン分泌能が有意な説明変数であった。インスリン抗体濃度が高い群では低い群と比較して早朝空腹時血糖変動も大きかった。結論として、１型糖尿病患者の早朝空腹時血糖変動には内因性インスリン分泌能がもっとも影響が大きいが、インスリン抗体濃度が高い患者の中にインスリン抗体の性状によっては血糖変動に影響を与えているものもあることが示唆された。